

## 昭和機器計装株式会社

**所在地** 東京都大田区東糀谷6丁目4番地17号  
**代表者** 代表取締役 篠原 利彦  
**設立** 1962年10月  
**資本金** 2,400万円  
**従業員数** 国内 20名/ベトナム 3名  
**URL** <https://www.showa-kk.com/>



現地拠点工場の外観



溶接作業をする従業員



現地拠点で設計作業も行う



日本に出荷前の嵌合検査



海外展開支援事例

目指すのは部品の安定供給と  
自社製品のさらなる展開。  
まずは現地の会社を設立し  
完全子会社化を図る

★ VIET NAM

### ○ 製造拠点を開設し新たなビジネスへ踏み込みたい

工業用流量計の製造・販売を主業とする当社は、フラッパー式流量計の国内トップメーカーです。過酷な環境下でも丈夫で使い勝手が良い当社製品は、国内大手鉄鋼メーカーをはじめ、海外の鉄道会社や国内の原子力発電所などでも使用いただいています。

当社では20年以上前から、この流量計製造に必要な鋳物部品を台湾の協力メーカーで製造してきました。しかし、台湾の物価上昇などの課題から近年では調達先をベトナム（ホーチミン）に変更。そして次第に「納期・品質などについて自分たちでコントロールしたい」「自社製品をベトナムで展開したい」と考えるようになりました。幸いホーチミン周辺には、成形・塗装など加工会社が揃っており、連携もスムーズです。そこでホーチミンに生産拠点を開設し「新規製品を構成する大半の部品をベトナムで調達・ベトナムで半製品まで組み立て、日本で組立、調整、検査を行い販売するビジネス」へ踏みこもうと、公社の支援を受けることにしました。

### ○ 現地事情にも明るい税理士の助言が役に立つ

偶然、以前のビジネスで付き合いがあったベトナムの方と再会したことから、「まずその方に現地で会社を作ってもらい、当社が買い取って子会社とする」という手段をとることとしました。そして、必要な手順・手続きについて公社から支援を受けました。ベトナムは法律・税制・ビジネスの慣習が日本と異なり、戸惑うことも少なくありません。ベトナム駐在経験があり、両国の事情に精通する税理士の方の助言をもらえたことは大変助かりました。

2020年の現地調査では、現地での会社設立から子会社化へのプロセス・課題・リスクヘッジなどについて打ち合わせ、ベトナム側の関係者と意図合わせを行いました。また、この出張を機に、ある日系企業とパートナー関係を結ぶこともできました。その後、現地で作ったベトナム資本の会社が稼働。現在は2022年5月の完全子会社化を目指して細かい法的手続きなどの最終段階に入っており、新製品の立ち上げを経て2023年には規模拡大も予定しています。

### ○ 「現地の方々と一緒に」という気持ちが成功の秘訣

海外拠点を開設する際には、様々な方の話を幅広く聞き、異なる視点からの情報を収集し、総合的に判断するのが良いと思います。私たちも、自分たちだけで海外拠点開設を進めようとしていたら、このような短期間では実現できなかったでしょう。

また、単に「安さ」だけを求める海外進出はうまくいかないように思います。「現地の方々と一緒に続けていける環境を作ろう」という気持ちが大事です。当社では「目指す会社像」を「5年、10年先にここで働きたいと思える会社にしたい」「みんなの夢を支援したい」と定めていますが、それはベトナムでも同じこと。そうできれば長く付き合っていくことは難しいと思うのです。